

マックスプランク複雑物理学研究所での滞在を終えて

理学系研究科物理学専攻 博士課程 2年 北村想太

ALPS 海外長期派遣制度を用いて、マックスプランク複雑物理学研究所に滞在させていただいた。マックスプランク複雑物理学研究所はドイツのドレスデンにある理論物理学の研究所の一つであり、ここで三ヶ月間にわたって、岡グループリーダーのもとで非平衡物性に関する共同研究を行った。

滞在中は非平衡物性に関する様々なトピックについてディスカッションし、多くの実りある知見を得ることができた。特に、周期外場中でのスピンの振る舞いの Floquet 理論に基づく解析に関しては集中的に取り組み、帰国後も共同研究を続けていくこととなった。また、複雑物理学研究所には Floquet 理論を用いた研究に多くの人が携わっており、定期的なセミナーを通して有意義な情報交換ができた。

生活面においても、長期にわたって海外で生活する貴重な機会を得ることができ、今回の滞在は将来の進路を考える上でも非常に参考になる経験となった。このような貴重な機会を与えてくださった ALPS 関係者の方々、ならびに滞在を受け入れてくださった研究所の方々に深く感謝したい。